



議員 本木 敏明
(未来クラブ)

NPO問題

町・県の検査、なぜ通った

擦り抜けられてしまった

問 県は平成24年3月16日、NPO法人「大雪りばあねっと」(以下りばあねっと)に対し予備検査を行った。その内容は、領収書をはじめ添付資料等の不備多数により検査、確認が不可能という指摘であった。しかし3月末の本検査が通ったことは、指摘が改善されたということか。

甲斐谷副町長 結果的にはその時点で通っているので県の検査を擦り抜けたと言える。県はそれで合格と判断したのである。
問 副町長は今まで、だまされたとかあれよあれよという間にやられたとか言ってきた。今度は擦り抜けられたと言うが、

そうされた責任は町にないのか。
佐藤町長 ここは法廷ではない。一日も早い問題解決のため、司法の場で

審理している。今後新たに重大な事実が出た場合には行政責任が問われる可能性もあり、裁判の推移を見ていきたい。

行政責任は残っているのでは

責任はすでに取った

問 「緊急雇用創出事業実施要領」の中で、県は国に対し半年ごとに委託事業の実績報告書を提出することになっている。当然「りばあねっと」に対する町の検査結果や情報を県から求められたはず。

備検査等で指摘された書類の提出を求めたが、このような結果になってしまった。内容に虚偽が多かったことなどから、町や県はだまされ、上手に擦り抜けられた。
問 だまされ擦り抜けられたで済むことではない。前執行部は退職してさらに問えないが、甲斐谷副町長は24年4月から半年間、総務課長として詳細を知っている立場であった。そうした大きな責任が残っているとは思わないのか。

上林企画財政課長 県から町に補助金が交付されたものは、その実績報告書を基に国に対し報告されているものと思う。
問 県内でも最も大きな補助金を交付された「りばあねっと」に町も県も簡単にだまされ、擦り抜けられたということになるのか。
副町長 当時、町は「りばあねっと」に対して予

備検査等でも指摘された書類の提出を求めたが、このような結果になってしまった。内容に虚偽が多かったことなどから、町や県はだまされ、上手に擦り抜けられた。
問 だまされ擦り抜けられたで済むことではない。前執行部は退職してさらに問えないが、甲斐谷副町長は24年4月から半年間、総務課長として詳細を知っている立場であった。そうした大きな責任が残っているとは思わないのか。
副町長 それを含めて平成26年1月に給与の減額をもって責任を取ったものだ。

町民への正式な報告は

文章で伝えていく

問 町史始まって以来の大不祥事、大事件であるこの問題を正式に町民に報告すべきと思うが。
町長 これまでも広報等で知らせてきた。今後

では難しさがあるので文章で伝えていきたい。それを何度か自宅で専門書を見ながら読んでもらうということでも町民には報告したいと考える。



御蔵の湯 跡地

◆ 復興財源の自治体負担の影響はあるか
その他の質問